

地域の医療を支えて一世紀

# 高山赤十字病院 100周年

大正11年11月1日に日本赤十字社岐阜県支部斐太療院として発足し

今年、100周年となる高山赤十字病院

地域の命を守り続けた1世紀の歴史と

さらなる100年に向けたビジョンについてお話をうかがいました

昭和44年の病院全景

## 地域と創る健やかな未来

日本赤十字社高山赤十字病院は、令和4年11月1日に創立100周年を迎えます。これまで尽力された病院職員の方々との賜物ですが、この病院が地域の方々と共に歩んできた証でもあり、地域の皆様に心から感謝を申し上げます。

大正11年の郡制廃止に伴って、飛騨三

郡立大野郡病院が日本赤十字社岐阜県支部斐太療院と改称してから100年経過しました。移管した当時は内科と外科のみの診療でしたが、その後、産婦人科、眼科が新設され、昭和5年当時の病床数は95でした。戦後直後の診療科目は8科で、職員は88名の体制でした。世の中が落ち着いてくると病院も本来の機能を取り戻し始め、建物も増築され職員も増えました。平成3年には540床という県内でも5本の指に入るほどの規模になりました。しかしその後の人口減少に伴い、病床数も徐々に調整しています。

2045年には飛騨地区の人口はさらに30%の減少が予測され、適正な病床数はその都度検討が必要と考えています。なお、平成4年には救命救急センターが設置され、飛騨圏域唯一の三次救急病院となりました。全職員が飛騨圏域の最後の砦としての意識をもつて現在も24時間体制で取り組んでいます。

当院は被災者救援活動にも力を入れてきました。阪神淡路大震災と東日本大震災の際には全国の病院から支援部隊が派遣されました。当院も率先してDMAT（災害派遣医療チーム）と救護班を派遣して、被災者の救援や医療支援に赴きました。さらに国際救援事業にも赤十字の精神に則り、バングラデシュ、ウガンダ、

ケニアなどに医師、看護師を派遣してきました。国内外にいつでも派遣できるよう物心両面からその準備を怠らないよう心掛けています。

一方、病院建物の老朽化も進んできため、数年前より病院新築計画を進めています。コロナ禍で計画を一時中断していましたが、このようなパンデミックにおいても万全の体制が取れるよう、さらに進化した設計を検討しています。具体的には今年4月に新たに新病院建設協議会を設置して市民代表の方々や行政に関わる皆様など多方面から外部委員を招いて計画を進めています。

病院創立100周年のコンセプトは「地域と共に創る健やかな未来」Next 100 years」です。過去の100年を振り返るのは大切ですが、新たな100年に向けてのメッセージはさらに重要です。地域の方々が健やかに過ごし、将来もここで住みたいと思つてもらえることが大切であり、そのような医療を目指したいと思います。100周年を迎えたこの機に幾多の先人達の苦労の上に今日の病院があることを胸に刻み、質の高い医療を維持しつつ「故郷を守る医療を目指して」を合言葉として職員一丸となつて地域医療に取り組んでいきます。



日本赤十字社 高山赤十字病院  
病院長 清島 満氏

## 100年のキセキ

明治32年

飛騨三郡立大野郡病院として創立(前身)

大正2年

病院内に助産婦看護婦養成所を設置

大正9年

初めてレントゲン装置導入

大正11年

日本赤十字社岐阜県支部斐太療院として発足

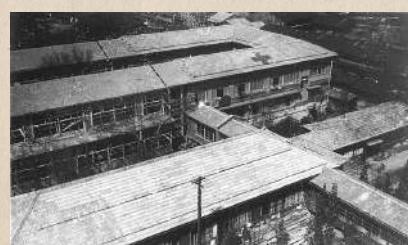
おもに内科、外科の診療開始



養護学校 みんなそろって



音楽会をめざして



大正時代の病院全景



診療風景



患者待合室

昭和30年

慢性小児病センター開設

昭和25年

高山赤十字高等看護学院に改称

看護学院を新築

昭和19年

名古屋陸軍病院高山赤十字病院として

軍患者収容

昭和21年

生活保護法指定医療機関に指定

昭和25年

高山赤十字高等看護学院に改称

看護学院を新築

昭和25年

総合病院高山赤十字病院に改称

完全給食・完全看護を開始



これから100年に向けて

# 地域一体で守るみんなの命



救命救急センター看護師長  
菅沼智巳さん

## 【救急医療】

### 飛騨地区の救急医療の現状

令和3年度、当院の救急車受入台数は3,288台と過去最高を記録しました。夜間や休日にご自身で救急外来に受診された方は6,870人でした。当院の救命救急センターは、飛騨地区で唯一の三次救急対応ができる施設で、重症度が高い患者さんを優先して治療を行うのが役割です。私たち救急医療に関わるスタッフは、質の高い対応ができるよう日々自己研鑽しています。市民の皆さんには、救急車の適正利用を意識していただくとともに、救急外来を受診の際には、待ち時間が長くなることもあります。ご理解の程よろしくお願いします。



検査部長兼がん治療研究副部長  
今井 勉さん（緩和医療専門医）

## 【がん医療】

### 大切な自分と家族を守るために

がん医療において、一番大切なのは、早期発見、早期治療に尽きます。早期発見することで多くのがんは、根治することができます。健診を受けたり、健診の結果を放置しないようにしてほしいです。また、進行癌でも積極的な治療で長期の生存が望める時代にもなっておりました。併せて、早期からの緩和ケアの介入により安心な医療を提供するように心がけております。共に治療を、寄り添う医療の提供を!!



周産期母子・小児医療センター長  
荒堀憲二さん

## 【周産期医療】

### 皆で守る飛騨地域の周産期医療

お産を扱う産科施設は年々減っています。お産は医師無しでは無理と思うかもしれません、今から70年前までは自宅で医者無しのお産が普通でした。その中で、皆さんの命は先祖からバトンタッチされてきました。イギリスでは異常のない産婦の帝王切開率は、病院より自宅が数倍低いことが分かり、医者無しお産の

意義も認められています。飛騨ですぐに医者無しお産は無理でも、まずは遠くのお母さんは近くの助産師に健診に来てもらえるとか、産後は同じ助産師や保健師に相談できるとか、困れば病院に行くなど、産科施設が減ってもそういう連携は可能です。皆で地域の妊娠婦さんを守っていきたいと思います。



令和3年 地域周産期母子・小児医療センターを設置  
日本赤十字社より寄贈移管されて  
100周年を迎える



平成26年 御嶽山噴火救助活動へ職員派遣  
平成28年 熊本地震救助活動へ救護班一班派遣  
平成29年 バングラデシュ南部避難民救援事業へ  
職員派遣



平成後期 地域医療支援病院会見  
平成後期 地域医療支援病院に指定



平成12年 高山赤十字訪問看護ステーション開設  
平成16年 高山赤十字看護専門学校外観  
平成22年 ハイチ大地震被災者救援事業へ職員派遣  
平成23年 東日本大震災救助活動へ職員66名派遣  
平成23年 地域医療支援病院に指定



平成初期 はなと  
高山赤十字老人保健施設「はなと」開設

## 【医療従事者の確保】

### 飛騨の医療をささえるために

少子高齢化が進む中、当地域の高齢化は加速しています。働く世代の人口も減少しており、この地域の医療を確保し、安心して暮らせるためには、医療者の確保が重要です。

今働いている皆さんが、長く働く環境を整えるとともに、からの飛騨の医療を支える若い皆さんの方が必要です。医療に興味のある方、ぜひ医療者を目指してください。地域の皆さまの生活を守るために、この地を訪れる皆さまの安心のために。



看護部長  
都竹智香子さん

## 【介護と療養生活】

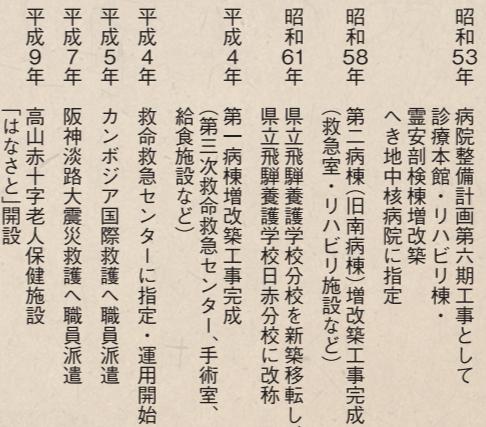
### これからの介護について

今後、さらに少子高齢化が加速し、介護サービスを必要とする方が増え、2040年には、最も多くなると言われています。地域の皆様がこれからも元気でいきいきと生活するためには、一人ひとりが、自身の健康を管理し、介護予防に努めることも大切です。また、たとえ介護が必要になったとしても、住み慣れた地域で、

その人らしくお過ごしいただけるよう、ご本人、ご家族、そして地域で連携し支援していくことが必要となります。老健「はなと」では、医療・看護・介護・リハビリなどさまざまな職種がチーム一丸となり、介護が必要な高齢者の方々の、療養生活を支援させていただきます。



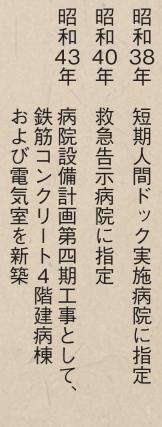
介護老人保健施設はなと施設長  
北出和美さん



昭和51年 高山赤十字看護専門学校に改称  
昭和53年 病院整備計画第六期工事として  
病院本館・リハビリ棟・  
へき地中核病院に指定



昭和51年 旧南病棟増改築工事完成  
昭和53年 第二病棟(旧南病棟)増改築工事完成  
昭和58年 病院本館・リハビリ棟・  
へき地中核病院に指定  
昭和61年 病院整備計画第六期工事として  
病院本館・リハビリ棟・  
へき地中核病院に指定  
昭和64年 病院本館・リハビリ棟・  
へき地中核病院に指定  
昭和65年 県立飛騨養護学校分校を新築移転し、  
県立飛騨養護学校日赤分校に改称  
昭和67年 第一病棟増改築工事完成  
昭和70年 第二病棟増改築工事完成  
昭和71年 第三次救命救急センター・手術室、  
給食施設などを  
昭和74年 救命救急センターに指定・運用開始  
昭和75年 カンボジア国際救護へ職員派遣  
昭和76年 阪神淡路大震災救助へ職員派遣  
昭和77年 高山赤十字老人保健施設「はなと」開設  
昭和78年 地域医療支援病院に指定



昭和40年 病院設備計画第四期工事として、  
鉄筋コンクリート4階建病棟  
昭和43年 よび電気室を新築  
昭和44年 短期人間ドック実施病院に指定  
昭和45年 救急告示病院に指定

# 一世紀の博愛をありがとう!

読者の皆さまから、高山赤十字病院100周年のお祝いと感謝のメッセージが届きましたので紹介します！

- いつもやさしく丁寧に説明してください**　さるドクターとナースの方々。病は気からで心が癒されパワーが出てきます。
- （飛騨市　みつちゃんさん　64歳）
- 母が30年以上勤めた日赤には、患者と**してではなく、お仕事体験、お見舞いにたくさん思い出があります。子どもふたりを産むことができ、産後のつらい時期も支えていただき感謝です。
- （高山市　ゆかんぽんさん　36歳）
- 10数年前に認知症の義父が入院した際には、看護師さんが「仰げば尊し」を歌つてくださり、義父は教員だったことを思い出したのか、一緒に口ずさむ姿を見て感激しました。**
- （高山市　あつちゃんさん　55歳）
- 木造の頃から家族の入院やお産に就職など、あらゆることでお世話になり、私の人生そのものです。ありがとうございます。**
- （高山市　zuzzuさん　63歳）
- 小さい頃の木造の病院、何となくですが今でも覚えています。風情があつてよかったです。**
- （高山市　はなままさん　50歳）
- 祖父から孫まで家族全員が車で50分かけてでも診てもらいたいに通つた有難い病院です。**
- （飛騨市　Ba-Baさん　60歳）
- いつもは近所のお医者さん。困った時は高山日赤。子どもたちも何度もお世話をになりました。地域の中核病院として、これからもよろしくお願ひします。**
- （飛騨市　おかんさん　51歳）
- 何度もが入院していた時に行われたクリスマスイベントでは、サンタクロースからプレゼントをもらえて子どもは喜んでいました。**
- （高山市　ざつきーさん　33歳）
- 私は下呂出身です。下呂市の救急車も飛騨市の救急車もちょっと大変だと日本に向かいます。飛騨地域の医療をとてももらっています。本当に感謝いっぱいの思いです。**
- （高山市　がんちゃんさん　62歳）
- コロナ禍で忙しい時に、内科受診しました。そんな時でもナースさんは丁寧にやさしく接してくれました。心があつたかくなりました。**
- （高山市　フナさん　63歳）
- 私の実母は60歳過ぎから日赤さんにお世話になり、入退院の繰り返しでした。重度の心不全があり、何度も助けていただきました。そのたびに手厚い治療や看護をしていただきました。最後は自宅で永眠しました。80歳まで生きられたのは日赤さんのおかげです。この場をお借りして本当に感謝申し上げます。**
- （飛騨市　Nさん　68歳）
- 子ども3人の出産の時、お世話になりました。1世紀にわたり地域医療を支えてきた日赤での出産は最高に安心でした。**
- （高山市　さらさん　23歳）
- 尊敬しかありません。感謝です。**
- （高山市　もりしさん　37歳）
- 私は56豪雪の冬、11／6～4／19まで6ヶ月入院しました。長男3歳、次男1歳3ヶ月、ふたりを実家と主人に預けて腎臓病での入院でした。扁桃腺を切つてからはみるみる体が楽になり退院することができました。あの時は日赤の皆さんにお世話になり、感謝の思いでいっぱいです。**
- （高山市　あつとちゃんさん　73歳）
- 自分は日赤で生まれ、日赤に通い、そして今、日赤で働いています。人生のすべてが日赤での思い出と言つても過言ではありません。**
- （高山市　ロジエさん　19歳）
- 昔おばあちゃんが看護師として働いていた日赤。おじいちゃんとの出会いの場所でもあつたそうです。前を通るたびにおばあちゃんを思い出す大切な場所です。**
- （高山市　さらさん　23歳）
- 私は大病を患い日赤に運び込まれ、そこから他病院に搬送され緊急手術により一命をとりとめました。初診時の処置と緊急搬送の対応に感謝します。**
- （高山市　みかりんさん　63歳）



職員課



薬剤部



高山赤十字病院 企画係長 和田功輔さん



救急 医療 看護部 患者さんに寄り添った看護を提供できるよう頑張ります！

コロナ禍においてたくさん応援してくれた住民のみなさん、100年もの間変わらず支援をしてくださった自治体や関係者の方々、今も昔も高山赤十字病院の医療を守ってきた職員の皆さん、本当にありがとうございました。そして、100周年事業を通して、多くの方にご協力いただきました。本当にありがとうございます。これからも高山赤十字病院をどうぞよろしくお願い致します。

高山赤十字病院 企画係長 和田功輔さん



臨床検査技師



栄養課



総務企画課



温かいお言葉ありがとうございます。